

[成果情報名] 長崎県における斑点米カメムシ類の主要発生種

[要約] 本県の水稲において穂ばらみ期以降に発生する主要な斑点米カメムシ類は、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシの5種類であり、従来に比べアカスジカスミカメの発生が増加している。

[キーワード] 水稲、斑点米カメムシ類、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ

[担当] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メール m.komine@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 農産（生産環境）

[分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、全国的に斑点米カメムシの被害が多発し、米の主要な格下げ要因となっている。その原因の一つとして加害種の変化等が示唆されているが、発生実態が未解明なため、十分な発生予察や防除対策ができていない。そこで、本県の水稲において穂ばらみ期以降に発生する斑点米カメムシ類の種類を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．早期水稲では、6科11種の斑点米カメムシ類の発生を認める（データ省略）。ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシおよびアカスジカスミカメの発生が多く、次いでシラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシの発生が多い（図1、2）。
- 2．普通期水稲では、6科12種の斑点米カメムシ類の発生を認める（データ省略）。アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシの発生が多く、次いでホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシの発生が多い（図3、4）。
- 3．従来あまり問題になっていなかったアカスジカスミカメの発生が県下全域で増加しており、他の種に比べて早い時期に水田に侵入する（図1～4）。
- 4．宮崎県等南九州で従来から問題となっているミナミアオカメムシの発生が2002年に調査した6地点中1地点（諫早市）で認められる。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本県における発生種が明らかとなり、防除対策に活用できる。
- 2．今後、主要種の本県水稲作型における加害能力等を明らかにし、効率的な発生予察技術や防除技術を確立する必要がある。
- 3．ミナミアオカメムシの発生地域の拡大等、動向に留意する。

[具体的なデータ]

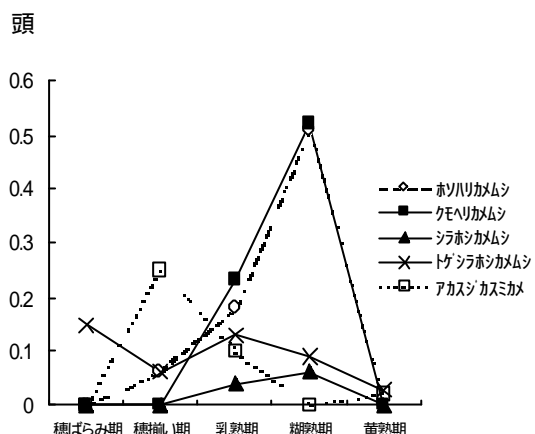


図1 水田における主要なカメムシの発生状況 (早期2001年)

注) 捕虫網による10回振りすくい取り捕獲成幼虫数

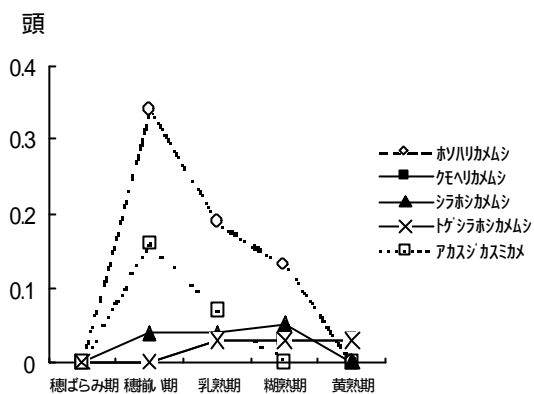


図2 水田における主要なカメムシの発生状況 (早期2002年)

注) 捕虫網による10回振りすくい取り捕獲成幼虫数

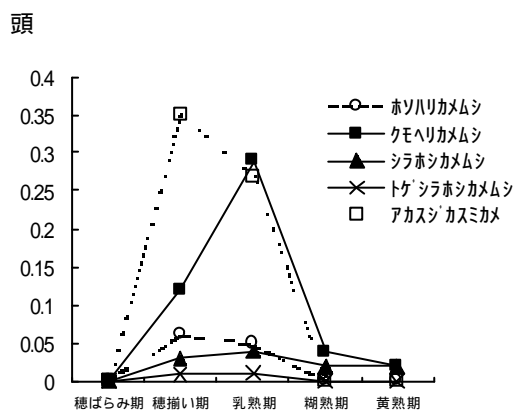


図3 水田における主要なカメムシの発生状況 (普通期2001年)

注) 捕虫網による10回振りすくい取り捕獲成幼虫数

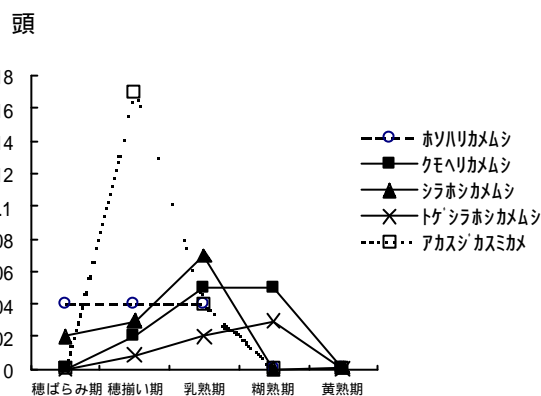


図4 水田における主要なカメムシの発生状況 (普通期2002年)

注) 捕虫網による10回振りすくい取り捕獲成幼虫数

2001年は諫早市、佐世保市、松浦市、平戸市、国見町、森山町、波佐見町、西彼町の8市町9地点調査

2002年は諫早市、佐世保市、国見町、森山町、波佐見町、西彼町の6市町6地点調査

[その他]

研究課題名：水稲斑点米カメムシ類の発生予察法の改善

予算区分：国庫（植物防疫）

研究期間：2001～2004年度

研究担当者：福吉賢三

発表論文等：福吉（2003）九州病害虫研究会報49：（投稿中）